

# 夜間学校 ニュース

1988年3月24日

西成区萩之茶屋2-8-9

旅路の里気付

釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の

指紋押なつ拒否断固支持！

定住外国人に市民権を！

みんなの 会館

みんなで つくろう

三人よれば 何とかの 知恵

釜ヶ崎とは...

どうみられているか

どうつたえるか

夜間学校ニュースは、こ

のところに、釜ヶ崎が、そし

て、我々日雇が、どのよう

に世間から見られているか、

また、伝えられているかに

ついて、考えている。

これについて考えたこと

はまた、我々自身が、自分

の住む街について、あるい

は自分について考えること

にもつながると思う。

その上で、同じ伝えられ

るのなら、こういうことで

あるいはこうういうかたち

で伝えられたい、知っても

らいというところが、ハッキ

リと出てくるだろうと思

言のつかがかりとしたの

は、朝日新聞のつちと、権

にのつた権垣さん企たき出

しのうた、という本、の紹

介だった。

釜ヶ崎について語られる

とき、必ずいわれるのが野

宿を余儀なくされる仲間の

ことだ。

権垣さんのことが大きく

紹介されたのも、青カンを

余儀なくされている仲間の

ために、長期に渡って炊き

出しを続けられているとい

ことが評価されていることだ

と思う。

これについて、あれはつ

売名だとして、一言でかたづ

ける仲間もいる。

そういう見方が正當か、

不當かは、それだけが判断

すればよいことだと思

仲間の死

本籍、住所不詳、氏名自

称松藤幸男、年齢64歳の男

遺留金品現金33万円、腕時計

右の者は、昭和61年8月

31日午後6時頃、萩之

茶屋3-4-19ホテル喜什

三階七号室にて発見された

もので、同月30日頃、同所

において肝硬変により死亡

したものと思われ

身柄引取人不明につき、

検視解剖のうえ、凶器斎場

にて火葬に付したので心当

たりの方は西成区所まで申

し出て下さい。(官報掲載

のものを「釜ヶ崎白書」から転載)

ただいえることは、野宿を余儀なくされてい  
る仲間について、また、それらの仲間を支える  
活動、共に闘おうとする人々についての、世間  
の関心は高い。

その一つのあらわれが、左下の朝日新聞「ひ  
とき」欄への投書である。

仲間の中には、着かんする連中のことばかり  
がとりあげられすぎる。釜の労働者が、みんな  
友人な状態だと思われのはかなわない。もっ  
とバリバリ働いて社会に貢献している面もとり  
あげて欲しいという声も、たくさんあること  
だろうと思う。事実、これまで、多くの仲間  
から直接に聞いた。

投書の主は、今、解決のための努力を同時に  
必要なのは、今、現に道端に寝込まざるを得な  
い人々に差し伸べられる手である。

そのとおりだと思ひ、だから、着かんを余儀  
なくさせている仲間のことは、広く訴えらるな  
ければならない。

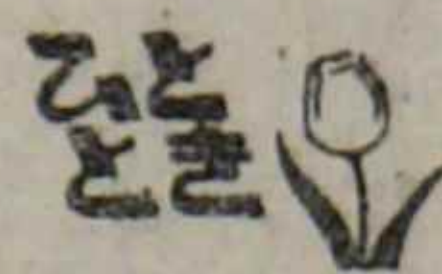
さらに、投書の主は続ける。その緊急性に  
ボランティアの人々は自分の持つ精いっぱい  
の時間と心を尽さようとしていた。彼らの地味な

会費のないう活動に携わること  
ができ、今回の誕生日は、これまで  
にない最高の日となった。...

投書の主を非難するつもりは  
まったくない。ただ、ここで、

釜ヶ崎のことがサシミのツマに  
なりかかっているような気がす  
る。この人は、釜ヶ崎に身を置  
き、ひたすら、釜ヶ崎とは一面と

その日は、どつぱっていた。  
偶然にも私の 道端に寝ころぶ人々は、エ  
ビのように体を丸め、寒さを  
防いでいる。大丈夫ですかと  
声をかけると、ウンと返事が  
返ってくる。温かさがほのか  
に残るおにぎり一個と熱いみ  
そ汁を手渡し、毛布で体をお  
おいながら、どこか具合の悪  
い友人と出かけ



### 誕生日

準備してくれていた夫は一本  
当に行くか?と心配そう  
だった。心遣いに感謝しながら  
らケーキをほおぼり、そぞく

### 誕生日の夜のパトロール

た。暗く冷たい空  
気の中で、星がや  
けにきれいだった。

大阪・釜ヶ崎の夜間パトロ  
ールは、午後十時過ぎから始  
められた。さまざまの人々が  
集まったボランティア活動

である。六七人が一グルー  
プとなり、毛布とおにぎり、  
みそ汁を持って回って行く。

初めての体験。夜の冷え込み  
と緊張で、肩の筋肉が痛いほ  
と、救急車が呼ばれ、病院に運ば

大かいていっていないのではな  
うける。このような視線は、野  
宿を余儀なくする仲間たちの精  
神をなえさせ、多くの仲間と  
の反響をうたもたらした。

## 病院に灯油まき放火

### 都島 職質で包丁男を逮捕

十二日午前四時五十分ご  
ろ、大阪市都島区東野田町  
二の八、明生記念病院(河  
野真彦院長、九階建て)で

火災報知機が鳴り、五階宿  
直室にいた事務員内山昌己  
さん(三三)が階下に入り、

通路に煙が充満していた。  
スプリンクラーが作動し、  
火は間もなく消えたが、廊  
下と壁の一部を焦がし、そ  
ばのエックス線撮影室、薬  
局などがガスだらけになっ  
た。

入院患者四十五人は六階  
から八階までの病室で寝て  
おり、報知機のベルにた



入院患者四十五人は六階  
から八階までの病室で寝て  
おり、報知機のベルにた

き起こされ、廊下に飛び出  
す人もいた。当直の看護婦  
二人が「火事はすぐに消え  
ました」と知らせた回り、  
けがはなかった。

灯油が二階廊下と一階待  
合室にまかれたあとがあ  
り、非常階段の上がり口に  
置いてあった灯油のポリ容  
器二缶(各十八リットル)が  
両現場に二缶ずつあったこ

とから、都島署が放火事件  
として捜査。午前六時ごろ、  
病院から南西二百メートルの京橋  
派出所前で、同市西成区萩  
之茶屋二、無職山下良久  
(四五)が「火をつけてきた」  
と口走っていたため、署員  
が職務質問。包丁を隠し持  
っていたので銃刀法違反の  
現行犯で逮捕、放火容疑で  
も追及している。

調べに対し、山下は「ジ  
ン臓が悪く、昨年夏、五十  
日間ほど明生記念病院に入  
院した」と供述。逮捕後、  
近くの病院で人工透析を受  
け、放火の詳細い内容や動  
機については明らかにして  
いない。

富田事務局長(六)は「捕  
まった男に心当たりはな  
い」と言っている。

一九八九年 三月十三日  
三月十三日  
法新新聞